



GLOBAL MAPPING NewsLetter 71

D. R. フレイザー・テイラー前 ISCGM 委員長の挨拶



私は、地球地図国際運営委員会 (ISCGM) 委員長を 10 年務めた後、退任することを決心しました。地球地図は新しい整備段階に入り、新しいリーダーの時代となっています。2002 年の終わりごろに委員長を引き継いで以来、地球地図は目覚ましい発展を遂げ、この実現を支援したすべての委員や参加国に感謝の意を表します。特に、私達は、現在の国土地理院 (Geospatial Information Authority of Japan) における献身的な事務局に深く感謝します。私はこの期間 3 名の事務局長とともに働いたことを嬉しく思い、3 人とも熱心な事務局チームを統率する極めて優れた管理業務を遂行しました。

2002 年には、地球地図に 90 カ国・地域が参加し、また参加検討中が 30 ありました。データ公開国はわずか 11 カ国でした。2013 年 4 月 8 日現在、182 カ国・地域が地球地図に参加し、参加検討中が 12 となっています。これは面積で世界の 96.1%、人口で 97.3% にあたります。地球地図のデータは 117 カ国・地域が公開され、さらに整備中が 26 あり、世界の地表面積で合計 79.6%、人口で 91.2% となっています。それにしても、これは目覚ましい進展です。

また、2013 年は重要な年となり、長年にわたる交渉ののち、EuroGlobalMap のデータが地球地図の利用のために最終的に公開されています。

持続可能な開発のための地球地図が立ち上げられたことにより、地球地図は新しい挑戦と機会に直面しています。ISCGM はこの新しい取り組みを強力に支援し、詳細は未定ですが、地球地図は UNGM4SD の有力な構成要素となっています。

私は ISCGM 委員長を退任しますが、国際的なレベルで地理空間情報管理や、特に、UN -GGIM、GEOSS 及びしばらくの間個人的・専門的に興味を持っている取り組みである UNGM4SD において積極的な役割を果たし続けるつもりです。地球地図の権益と UNGM4SD の権益は補完的ですが、現時点でこれらは同義ではありません。ISCGM 委員長は地球地図の権益が保護されるよう保証する責任があります。退任することによりその責任から開放され、国際的な場でより大きな行動の自由を持つことになります。

ISCGM 委員長を務めたことは名誉であり、地球地図コミュニティのすべてのメンバーの支援に感謝します。次期委員長のポール・チュン教授の成功を祈り、地球地図が彼のリーダーシップのものとで栄えることを確信します。

D. R. フレイザー・テイラー

第20回地球地図国際運営委員会報告

福島芳和
ISCGM 事務局長



平成 25 年 7 月 20 日に、英国ケンブリッジのチャーチルカレッジにおいて、第 20 回地球地図国際運営委員会（ISCGM）会合が開催されました。同会合には、委員、国家地図作成機関の代表等 21 名が参加しました。

テイラー委員長からの 10 年にわたる大きな功績等のコメントとともに今会合で委員長を退く旨についての発言がありました。マレーシアのカディール博士が委員長を務める委員長選定委員会の作業結果が報告され、新委員長としてポール・チュン氏（シンガポール国立大学教授・前国連統計部長）が本委員会の賛同によって ISCGM の新委員長に任命されました。チュン氏はジョン・エステス教授、フレイザー・テイラー教授に続く 3 代目の委員長です。

ワーキンググループ4の座長である建石教授（千葉大学）より、MODIS データを用いた解像度 15 秒の全球土地被覆データ及び樹木被覆データの完成並びに 7 月 19 日からの公開について報告され、ユーロジオグラフィックスのラベル氏より、ユーロジオグラフィックスが中心となっており行われている European Location Framework (ELF) の取り組みについて概要の報告がありました。

今回整備した全球土地被覆データや全球樹木被覆率データ第 2 版と同じ 15 秒解像度の全球標高データ整備を開始します。ISCGM 事務局が整備を担当し、完成次第、その提供を進めて行くことになりました。標高データにより、土地被覆、樹木被覆率及び標高データ間の相互利用が促進されることとなります。また、地球地図データの利用を推進するために、参加各国のデータポリシーの表現方法を簡素化するための検討を始め事務局から各国に対しアンケートを実施することになりました。



ケンブリッジ会議 2013 と GGIM 3 報告

鶴生川太郎

国土地理院応用地理部環境地理課長補佐



国土地理院村上広史氏による GM4SD の発表

イギリス・ケンブリッジにおいて、7 月 21 日から 24 日にケンブリッジ会議 2013 が開催され、続いて 7 月 24 日から 26 日に地球規模の地理空間情報管理に関する国連専門家委員会（UNCE-GGIM）の第 3 回会合が開催されました。ISCGM 委員長であるポール・チュン教授、前委員長のフレイザー・テイラー教授、及び福島 ISCGM 事務局長がこれらの会議に参加しました。

ケンブリッジ会議 2013

会議は英国陸地測量部の主催で開催され、各国の地図作成機関の長が集まり、地理空間情報管理に関する優良事例や最新のトレンドを共有する場となりました。66 カ国の産官学の分野から約 160 名の参加者がありました。会合は“Bringing Geographic Authority to Information”というテーマのもと、地理空間情報とその他の情報の相乗作用にフォーカスし、地理空間情報当局の役割について議論が行われました。政策決定者は基調講演において地理空間情報を安全保障、気象、交通などの様々な分野において活用した例を紹介しました。また、多くの地域あるいは政府間イニシアティブが紹介されました。会議は UNCE-

GGIM との共同セッションをもって成功裏に終了しました。なお、会議の期間中に英国のロイヤルベビーの誕生が報告され、会議場は一時お祝いムードに包まれました。

UNCE-GGIM

地球規模の地理空間情報管理に関する国連専門家委員会（UNCE-GGIM）の第 3 回会合はコーン・エクスチェンジで開催されました。国連加盟国、国際機関、産業界から約 250 名の専門家が参加しました。

会議に関する諸手続きの確認から始まり、地球規模の地理空間情報管理に関する多くの重要議題が議論されました。グローバルな測地参照系の構築に向けた議論では、各国の貢献を強化していくことの必要性が認識され、これに関する国連総会決議案を作成するための作業部会を形成していくことが合意され、多くの国が作業部会への参加を表明しました。

また、持続可能な開発のための地球地図（GM4SD）の整備に関しても議論が行われ、ISCGM 委員長であるポール・チュン教授も積極的に発言を行いました。専門家委員会は過去 20 年にわたる地球地図整備における ISCGM の貢献に感謝の意を表し、ISCGM と GM4SD が一層連携を深め、ISCGM が GM4SD の取組の中心的な役割を担うことが求められました。

次回第 4 回の国連専門家委員会会合は来年の 8 月に米国ニューヨークの国連本部において開催予定です。

地球地図第 2 版の公開 : スリランカ

A.L.S.C. ペレラ

スリランカ測量局副局長 (LIS/GIS)



筆者

スリランカ測量局は 2002 年の測量法第 17 号により権限が付与された国家測量地図作成機関です。主な任務には、土地測量・地図作成による国家の地理空間情報を作成する責任が含まれます。その他、本局はリモートセンシングと全世界的衛星測位システムの国家の担当部署で、地球地図国際運営委員会 (ISCGM) が行う地球地図プロジェクトの公式な代表となっています。本局は 1800 年 8 月 2 日に設立された最も古い部局の一つです。測量局長が測量・地図作成業務の長でスリランカ土地測量審議会会長を務めています。本局は土地区画のために正確な測量計画を提供し、表記登記に関する国家プログラム (National Programme on Title Registration) の実施に主導的な役割を担っています。広範な活用のための正確な成果品として、縮尺 1 万分 1 の地形図の 80% も利用可能です。

地球地図スリランカ第 2 版

地球地図第 1 版のデータは 1999 年に提出されました。第 1 版のデータは 25 万分 1 のスリランカ地図に用いられたレイヤ分類に従って数値化し作成されたベクターデータでした。データの主題は行政界、道路、鉄道、森林、河川、湖沼、村名、建物、都市、等高線、潟湖、山で、横メルカトル投影法をもとにしていました。データは合計 65,610 平方キロの陸地で、北緯 5 度 55 分から 9 度 51 分、経度 79 度 41 分から 81 度

53 分を範囲としています。地球地図として整備されたスリランカのデータは 2000 年に公開されました。データは 8 レイヤ（行政界、水系、交通網、人口集中域、標高、土地被覆、土地利用及び植生）で構成されています。最初の 4 レイヤはベクターデータで後半の 4 レイヤはラスター画像です。参照座標系は ITRF94 座標系でした。地球地図事務局の要請により、2007 年に土地利用・土地被覆データレイヤが更新されました。

2000 年に、このデータを第 1 版として公開した後、事務局からの第 2 版の準備の要請が、十分に余裕を持って通知されました。事務局からの要請をもとに、全球の分類に一致する土地利用・土地被覆データを編集する試みが何回かなされました。国土の範囲が比較的狭いため、非常に小さな土地利用区画の描写は重要ではありませんでした。スリランカのような局地的な範囲に全球の分類を適用することは非常に困難でした。

わが国の南部が最近開発されたため、別の形のデータ源を用い交通レイヤを更新しました。

マッタラ・ラジャパクサ国際空港の開港の後、空港データレイヤも更新されました。第 2 版データの公開は、地図利用者のコミュニティでの利用のために本測量局のウェブサイトで発表されました。地球地図事務局が公開したソフトもデータの精度チェックに非常に役立ちました。

測量局長は地球地図データの利用を奨励し、データの著作権は測量局が所有しており、非営利目的では無償の利用を認めると述べ、地理空間データの利用者のコミュニティに伝えました。

テイラー先生へ感謝の言葉



テイラー教授の 10 年以上にわたる強力なリーダーシップにより「地球地図」は真に地球規模の地図となりました。それは教授の記事にあるように、この間の参加国数と整備国数の推移を見れば一目瞭然です。

テイラー教授は、2002 年 5 月に委員長に選ばれ、最初の ISCGM 会議は 2002 年 9 月です。2003 年 7 月に沖縄での地球地図フォーラムを主導しました。

これ以降、テイラー教授は、事務局と一緒に、各国に地球地図プロジェクトへの参加やデータ整備を働きかけました。地球地図整備についてみると、各国の地図作成機関が整備の重要性を理解した後、通常、人や予算を確保するまで 1 年、技術者が地球地図の作成方法を理解して、品質の確保されたデータセットを作成し、データポリシーを決定するまでにさらに 2 年必要です。実績として、地球地図の整備国数が非常に増えたのは、2006 年のチリでの ISCGM から 2008 年の東京での地球地図フォーラムの間で、整備国・地域数が 27 カ国から 73 カ国に増加しています。この間には、テイラー教授だけでなく、各大陸域で呼びかけや技術指導を行った



地図作成機関、学術・研究機関の協力も重要でした。その後、地球地図の仕様を現代風に改定するため 2 年を要し、2013 年 3 月に、ヨーロッパのデータが無償で公開できたことも重要な要因で、整備国・地域数が約 40 増えました。

事務局の立場からみれば、いろいろな機会を利用するタフな交渉官としての教授のリーダーシップが目立った 10 年間でした。今後は、テイラー教授には、ますますの健康と活躍を期待します。

ISCGM 事務局長 福島 芳和

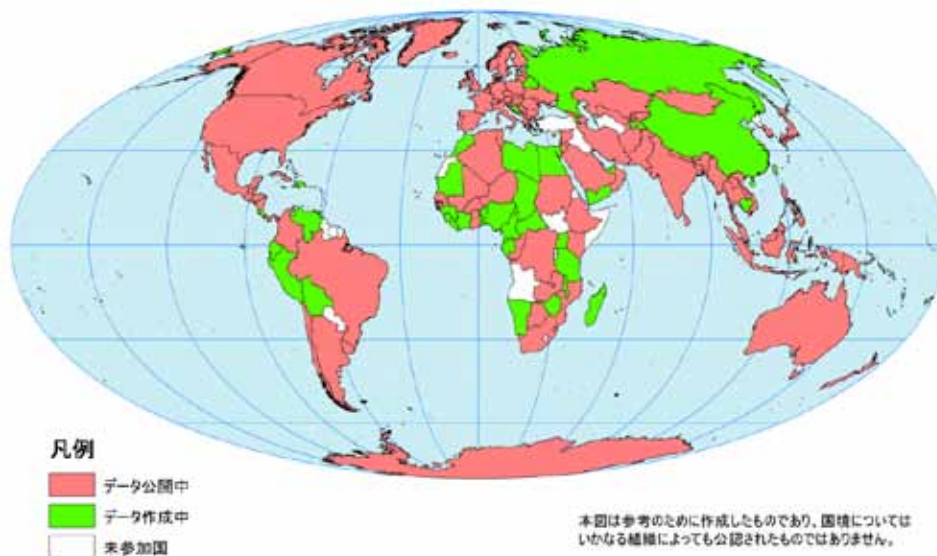


事務局から

地球地図公開と地球地図プロジェクトへの参加

2013 年 6 月 25 日に前回のニュースレターが発行されて以降、エルサルバドルの地球地図第 2 版が 7 月 3 日に公開されました。データ作成ならびにご提出についてご協力頂き、ありがとうございました。

現在 166 カ国 / 16 地域が地球地図プロジェクトに参加し、109 カ国 / 8 地域（うち Ver.2 を公開しているのは 69 カ国 / 4 地域）の地球地図が公開されています。



メール配信のお知らせ

メール配信へ切りかえご希望の方は、氏名・住所・メールアドレスを sec@iscgm.org までお知らせください。

地球地図及び関連の会議

以下は地球地図及び関連の会合の予定です。関連の会合についての情報を歓迎します。

2013 年

- 10 月 15 日～17 日、成都、中国
地球規模の地理空間情報管理 (GGIM)
成都フォーラム
- 10 月 28 日～30 日、テヘラン、イラン
第 2 回国連地球規模の地理空間情報管理に関するアジア太平洋地域委員会総会
- 11 月 4 日～8 日、アディスアベバ、エチオピア
第 14 回全地球空間データ基盤会議 (GSDI)

- 11 月 14 日～15 日、カリフォルニア、米国
ISO/TC211 地理情報専門委員会第 37 回総会

2014 年

- 1 月 13 日～17 日、ジュネーブ、スイス
第 10 回地球観測に関する政府間会合・
地球観測に関する政府間閣僚級会合



NEWSLETTER は地球地図情報誌として、世界中の国家地図作成機関や地球地図データ利用者など 1,200 名以上もの多数の方々に配布されています。記事の投稿、配布の希望、関連する情報などお待ちしております。

本誌の記事は、原文をそのまま記載してあります。

編集・発行：地球地図国際運営委員会事務局

連絡先：〒305 - 0811 茨城県つくば市北郷1番 国土地理院内

Tel: 029 - 864 - 6910 Fax: 029 - 864 - 8087

ホームページ: <http://www.iscgm.org/>

E-mail: sec@iscgm.org